

資 料

第1回「情報発信・合意形成に関する検討部会」議事要旨	P.23
阿蘇で行われている環境教育・農業教育・ボランティア活動・情報発信などの事例	P.24
インターネットによる「阿蘇の草原」の紹介のされ方	P.26
ボランティア受け入れに関する牧野組合の意向-5年間の意識変化-	P.29
自然案内人とトレッキングコースの紹介 - 雑誌「ジバング倶楽部」2003.10月号より	P.30
阿蘇グリーンストックによる農家民泊(ファームステイ)・農業体験型修学旅行の実施内容	P.34
「全国エコツーリズム大会 in 阿蘇」の開催概要	P.36
アンケート調査結果からみた草原保全へ向けての課題と可能性	P.39
合意形成に関する検討グループ・牧野組合との意見交換会における意見のまとめ	P.40
体験型ツアーとしての阿蘇の草原利用のしくみづくり検討例	P.41

第1回「情報発信・合意形成に関する検討部会」議事要旨

開催日時：平成15年12月12日（金） 10：10～12:30

開催場所：阿蘇勤労者いこいの村 会議室

- 議 事：（1）阿蘇における草原再生と当検討部会の進め方について
（2）草原利用・環境教育等の推進に関する基本的考え方について
（3）情報発信と共有について

【委員の主要な発言要旨】

< 草原再生と情報発信 >

- ・ 土地をうまく利用するには、地元からの発想に加え、外からの知恵が必要。
- ・ 阿蘇での草原再生に関する取り組みは、自然再生や農業を支援するシステムのあり方を検討する上で、象徴的な大きなテーマとなる。外からの知恵を集めていくためにも、情報発信は重要。そういう意味で、草原利用と環境教育がメインに掲げられているのは、少し物足りない気がする。
- ・ 草原の価値を住民の人が認識し、誇りを持つ人が増えれば、阿蘇は自然と活性化する。
- ・ 自分の地域を人に紹介することによって、当たり前と思っていたことの価値を気づかされるもの。
- ・ 地元で誇りを持った人を増やすためには、外との交流が不可欠。地元の人々の誇りや意識を高揚させるには、情報交換をすることが必要。

< 牧野の利用 >

- ・ 草原に入るための注意事項や留意点など、阿蘇でのエコツーリズムにおける留意点を検討する必要がある。
- ・ 草原を案内する人や牧野を提供した人にお金が落ちるなど、直接、地元の人に利益が出るしくみでないため。
- ・ 草原を活用したモニターツアーについては、ビジネスに発展するような取り組みを望む。

< 環境教育に求められるもの >

- ・ 環境教育については、草原は牧野組合の人達をはじめ人々の営みがあってこそ維持されていることを掘り下げて欲しい。農業教育など、もう少し具体的な目標に絞り、草原だけでなく集落・地域の農業や畜産業への理解を促進させることが必要。